

タンチ山の今昔



世田谷区駒沢2-39-25
区立駒沢中学校生徒会
新聞委員会
電話(3422)7401

☆なぜタンチ山っていうの？

1. 「タンチ」という名の大ドロボウが盗んだ宝を山に埋めたという説(まだタンチ山に財宝がねわっているかもしれない)

2. 山に住んでいたバクチウチの頭の名前「タンチ」からとったという説

3. 明治の末頃、こじきの親方「タンチイ」夫婦が掘立小屋を建てて住み始めたからという説(「世田谷の民話」より)

その他、いろいろな説があるそうです。



春・夏・秋・冬 四季折々の顔を見せ、すばらしい自然の宝庫となっているたち山。みなさんもこのたち山で一度は遊んだことがあるはず。今回はそんなたち山の歴史・植物、そして世田谷のかかわり合いを、ご紹介したいと思います。これを跳んで、たち山をぜひ散策してみてください。

向井潤吉アトリエ館に行く！

向井潤吉アトリエ館は駒沢中のすぐ近くにあり。門をくぐり、石の階段を登ると、わきには紅葉の美しい庭園が広がります。私達はタンチ山と向井潤吉さんについて、お話を伺いました。

向井潤吉さんは昭和8年に駒沢に転居されたそうです。昔は玉川線の駅からお宅までの間に家が4軒ほどしかなくタヌキ・ヘビ・キツネなどが出没したそうです。向井さんは家路に向かう時は、両手に小石を握り、動物が襲ってきた時のために備えたそうです。また、家にも動物が入ってきたりして、奥さんがこわがったそうです。

館内には向井さんが残された絵の具の跡などがそのまま残っていて、係の方々の館への愛情が伝わってきて、また来くなりました。向井潤吉さんは、昨年の11月14日死去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

タンチ山は小さくなった！

戦時中、高射砲台の建設や空襲により、一帯けずられる。畑をつくるため、無数の木々が伐採される。

区画整理や駒中の旧図書館・現在の体育館建設のため、けずられる。現在のタンチ山の形になる。

☆現在、タンチ山の姿をとどめているのは、向井潤吉アトリエ館の庭と駒中にある山だけだそうです。駒中にある木の種類がアトリエ館のものと同じことから、この辺一帯が昔タンチ山だったということがしのげられます。

クヌギの木は四〜五月に咲き、冬に葉が枯れても落葉しません。

タンチ山のどんぐりには、クヌギとクヌギがあります。クヌギの花は四〜五月に咲き、木はクヌギよりも低く、若木では紅葉することがあります。葉の裏が白いのが特徴です。

タンチ山に、とつぜんお寺を建てることになりました。そんなある日、山ふもとの百姓彦兵衛にも、参道をつくるのにじやまになるから立ち退けと村役人からのお達しがありました。

「お役人様、お願いがございませう」
「かわりの土地をあたえるのに、不服があるのか」
「そんなでもない。それより、山を追われるたぬきやうすが、かわいそうでございませう。それだけが心配です」

「たわけたことを申すな、畜生は、お主より利口でござる」
お役人は、彦兵衛夫婦のたつての願いに、家やそのまわりの大木や雑木をそのまま残し、そのかわりに畑の一部をひらくことを約束しました。

彦兵衛の家の縁の下で、耳を立ててこの話を聞いていた夫婦たぬきは、ほっとしたのです。りすの親子も、小さな目がしらを熱くしました。

何年かすぎました。タンチ山に立派なお寺ができました。そして村は、大昔しんの祝い

みなさんのお母さんやお父さんがいたころのタンチ山の様子を、インタビュウしてみました。

☆一年の入学の写真を山の斜面で撮った。タンチ山の上には、在学中に図書館もたつた。その図書館は多くの人に利用されていた。(35年卒業男子)

☆駒中にいたころのタンチ山にはガラス張りの図書館や、木のベンチがあり、公園のような感じだった。山の大きさが今より大きかった。(49年卒業男子)

タンチ山を手入れしてくださっている主事さんにお話をうかがいました。

タンチ山の夫婦たぬき ——「世田谷の民話」より——



ことで、喜びに明けくれたのです。ところが、とうとうたぬきと彦兵衛が、春のたつ巻とひやうに村がおそろい、また、夏から秋にかけて冷雨がつつきました。サトイモ畑に花がくるつて咲くなど、ふしぎな日がつづくのです。

その年は、彦兵衛の家でも不作でした。夫婦は子どもを養かせたあと、あかすらの糧を心配していました。

「トン、トン」
うら戸をたたく音がします。彦兵衛が板戸をそとと開けると、たぬきが大きな腹づつみに一俵ずつ、米俵をかかえているのです。

彦兵衛がふしぎに思っていると、タンチ山のためが、恩返しにきたというのです。あくる日も、同じころまた戸をたたく音がします。こんどはたぬきに連れられた大ぜいのりすが、大豆や小豆や麦を、小さな両手で運んできました。

りすもたぬきに負けず、せつせと恩返しにきたのです。

然です。そんなタンチ山をみなさんに大切にしたいと思っています。だから、紙くずなどは山に捨てないでください。そして、ケガなどしないよう注意して、いっばい遊んでください。

タンチ山は春が一番きれいです。たらの芽やふきがあたりります。秋はどんぐり、夏はせみの脱け殻などで埋めつくされ、季節を感じます。昔は、もつとつそうとしていて、陽が下まると通らないくらい木が覆っていました。タンチ山は、駒中にとって貴重な財産だと思っています。

タンチ山に、たらの芽やふきが出るのは知りませんでした。一度見てみたいと思いました。(Y)(K)